

教育委員会会議の概要（令和5年1月定例会）

- ◆ 日 時 令和5年1月23日（月）午後2時00分から午後3時33分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	欠 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

◆ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 議事録の承認 11月定例会、12月臨時会
- 3 議事録署名委員の指名 山 田 委 員
- 4 報 告 事 項

（1）市議会報告について

（総務課長 説明）

資料に基づき報告

後 藤 委 員 1人1台端末導入の評価について、ICT教育に関しては以前の総合教育会議の場でも意見をしたが、この短期間でもすごく変わっており、現場は進んでいる。わずかな期間で、中学校では板書が少なくなり、子どもたちはタブレットの文字をノートに写すという授業が多くなっている。おそらく教育委員会で想定している以上に、現場ではICT教育の浸透が早く、進みが早いので、教員の指導力の向上はもちろんであるが、教育プログラム自体もどんどん進化していかないと、子どもたちはどんどん追いつき、追い越してしまうことになると思う。どんどん高度なものを教え、引っ張ってあげられるような授業を展開していかなければいけないと見ていて思った。

この前出席した小学1年生の授業では、魚の絵を描いて、それをタブレットの中の海に落とすと魚が泳ぐというプログラムをやっており、みんなゲーム感覚でとても簡

単に行っていた。特別支援学級や別室登校の子どもも教室に来て行っていたし、足し算や平仮名が書けない子もみんなできているので、先んじてプログラムを展開してあげないともったいないと思った。

また、理科教育の充実に関する大学連携について、子ども科学キャンパスや大学探検はすごくありがたい企画だが、親が連れていけないと参加できないということで、それを体験できる家庭は限られてしまう。教育熱心な家庭だけではなく、全ての子どもたちが大学や理科の実験等に触れられるよう、学校への出前授業や校外学習のような形で、子どもたちが最先端の技術に親しめるような機会をきちんと与えていただいていることは、本当にありがたく思う。ナノテラスに関しては、子どもも保護者も関心が高いので、校外学習や見学会があったら、ぜひ申し込みたいと思う。

学校教育部長 ICT教育については、今年度、ICT支援員を各校に週1回配置することができた。学校の先生が授業をスムーズに進められるのは、授業準備など、手のかかる部分をICT支援員が支えられたことが大きな要因かと思っている。先生方の端末の利用状況も調査しており、今手持ちにはないが、機会があれば紹介したいと思う。

また、理科教育の部分であるが、ご指摘のとおり、出前授業等をもっとたくさん実施できればというところではあるが、コロナの影響などで、科学キャンパス自体も縮小したところもある。親がついていかななくても体験できるようには仕組んでいるが、なかなか全員参加というわけにもいかないの、やはり来てもらうような形がいいのだろうと思っている。学校と大学との調整により授業ができる場合もあると思うので、そのような機会を得られるよう、学校にも働きかけたいと思う。

梅田委員 校長のリーダーシップに関する質疑があったが、教員自体を志望する学生が減っていて、教員数そのものが増えにくい現状にある中、管理職の仕事の大変さを働いている先生方はおそらく分かっている。そう考えると、まずは管理職に対して希望が持てるような施策が必要と思っている。やはり校長先生が夢を持って、こういう学校をつくりたい、こういう子どもたちを育てたいと思えることはとても大切で、そう思えるような管理職を育てていくために、いつからどんなふうに取り組んでいくのか。リーダーシップ研修のようなものもあると思うが、どの段階から育てていくといいのかということも含め、ご検討いただきたい。既に実施していることもあると思うが、これからますます厳しい時代になっていく。他の自治体では校長先生、教頭先生の再任用、再々任用という話も聞いており、そうした状況にならないようにしていくことが必要になると思っている。また、答弁の最後に、「校長としての必要な力量」という言葉があるが、これを見て、校長としての必要な力量とは何なのかということを考えていかなければならないと思う。何かができるというだけではなく、柔軟に物事に対応できる力や決断力など、教育委員会としても改めて見直しつつ、今後の管理職登用についてご検討いただきたい。管理職になってから育てるというよりは、なる前から育てていくという視点で進めていっていただきたいと思う。

教育人事部長 管理職育成について、今年度から管理職を目指す職員も含めた形で、学校の運営力向上研修を行っている。毎回いくつかのテーマを選び、教育人事部参事や教育センター所長などが講師となって、オンデマンドで研修を行っている。

また、校長としての必要な力量について、教育センターでも管理職に求められる力量としていくつかの要素を挙げており、管理職の育成に努めているが、いろいろな時代の変化や文科省の考え方等もあるので、そういった点を見定めながら、必要な力の

育成に努めていきたいと考えている。

5 付 議 事 項

第 36 号議案 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について

(1) 令和4年度教育予算について

(総務課長 説明)

原案のとおり決定

(2) 令和5年度教育予算について

(総務課長 説明)

原案のとおり決定

(3) 指定管理者の指定に関する件(仙台市市民センター)

(生涯学習支援センター長 説明)

原案のとおり決定

(4) 工事請負契約の締結に関する件(仙台市立宮城野中学校校舎増築等工事)

(参事兼学校施設課長 説明)

原案のとおり決定

(5) 仙台市職員定数条例の一部を改正する条例

(人事課長 説明)

原案のとおり決定

(6) 職員給与に関する条例の一部を改正する条例

(教職員課主幹 説明)

原案のとおり決定

(7) 仙台市博物館条例等の一部を改正する条例

(仙台市博物館条例、仙台市科学館条例、仙台市文化財保護条例)

(文化財課長 説明)

原案のとおり決定

第 37 号議案 教育功績者の表彰について

(総務課長 説明)

原案のとおり決定

6 閉 会